

## Y07b 高校生・大学生を対象としたプラネタリウム番組制作を通じた天文教育の実践報告(2)

大朝由美子(埼玉大学), 小田達功(さいたま市宇宙劇場)

天文学は、他の学問分野と比べて、児童生徒・市民の研究活動や天文教育・アウトリーチ活動を通じて社会との関わりが大きいという特徴があり、さまざまな取り組みがなされている。たとえば、中学生・高校生が天文学会で天文学に関する研究発表を行なうジュニアセッションは、本年会で25回を迎え、天文学についての学習や研究活動を活性化させる役割を果たしている。天文学会のジュニアセッションは、先駆的な存在であり、近年では物理学会や気象学会等他分野の学会にも波及し、同様の企画が進められている。加えて、最先端の天文学に触れる機会として、天文教育・アウトリーチ活動が挙げられる。天文学における教育・アウトリーチ活動の取り組みは、IAUを含む世界各国で、他の自然科学分野より活発になされている。一方、中高生が参加できる取り組みがあまり実施されていない。そこで本実践では、天文アウトリーチという観点から、高校生・および教員養成系の大学生を対象とした、プラネタリウム番組制作を通じた天文教育を行なった。

本実践では、資質・能力の要素である「思考力・判断力・表現力等」に着目し、天文学を題材に、児童生徒や市民に科学を正しく伝え、説明する力を養成することが目的である。自然科学・人文科学と学際的な要素があるため、分野を横断した知見の修得にもつながることが期待される。これまで、教育学部自然科学専修理科学分野の「地学実験」で自由選択課題として募り、2021、22年に8、5名が参加し、それぞれ3番組ずつを制作・発表した。小学生対象の番組から一般市民のもの、教育的な番組からエンターテインメント要素の強いまで多岐にわたった。

本講演では、これらの内容や、高校生・大学生の本実践を通じた理解度や意識の変化等を報告する。